

	題材	所在地	説明文 ※地域から出していただいたものは、できる限りそのまま掲載しています。
1	トロッコ林道の鉄橋	広瀬	県道三本松甲佐線を美里町方面に進むと緑川に架かる鉄橋が見えてきます。 甲佐営林署から内大臣の角上までトロッコ林道が、内大臣を中心とした豊かな森林を活用するため大正3年（1914）から昭和2年（1927）にかけて造成された林道です。大正13年（1924）には、緑川上流域（内大臣一帯）で伐採された木材は、熊本営林局森林鉄道（トロッコ道）から貯木場（現在の甲佐町役場）まで運搬されていました。この鉄橋は、木材を積み出すトロッコ林道の一部でしたが、昭和38年（1963）に内大臣橋の架橋で昭和39年（1964）に廃止となりました。
2	破魔呑（はまどん）水源	谷内	公民館の川向かいにある湧水の水源で、飲料水として使用されています。 大昔、ここに通行人に悪さをする大きな亀が住んでおり、人々が困っていたところ、甲佐岳にある福城寺からお坊さんがやってきて、湧水の水を飲んでから矛で亀を一突きにしたという言い伝えが残っています。水を呑んで魔を破ったというのが「破魔呑」の名の由来といわれています。
3	西原薬師堂	西原	入母屋造瓦ぶき妻入のお堂です。厨子の中の木造薬師如来立像の両脇に十二神将像が六体ずつ祀られています。着物は彩色されており、昔は、子供の神様ともいわれていました。年に1回お薬師大祭があります。
4	小鹿の棚田	小鹿	棚田とは、傾斜地につくられた水田のことです。一つ一つは小さな水田が、段々に重なっており、美しい光景になっています。
5	御手洗神社	安平	甲佐神社の甲佐明神様一行が身体を清められた所に御手洗神社が作られ、毎年12月15日にお祭があり、しめ縄とワラの「蛸（たこ）」を作り、奉納する。

	題材	所在地	説明文 ※地域から出していただいたものは、できる限りそのまま掲載しています。
6	甲佐神社	上揚	神話の地区 ・かみ様の地区内は ・みなさんが ・あいの心で ・げんきを与える 心が一つにまとまっている地区！ 緑川右岸、上揚区のほぼ中央に位置する歴史古い社です。阿蘇大神(タケイワタツノミコト)の第二皇子甲佐大神(ヤイミミタマノミコト)をお祀りしてあります。鎌倉時代には肥後国の御家人・竹崎季長が蒙古襲来絵詞を奉納し、拝殿に大絵馬が描き写されています。本物は皇室に献上され、現在は国宝に指定されています。 例祭は10月9日で天下泰平、五穀豊穰、家内安全等を祈念します。
7	お蝶岩・お蝶滝	東寒野	東寒野公民館のすぐ横にある滝と岩です。この場所には、次のような民話が残っています。 むかし、東寒野の手蝶山という山で、海王という旅人とお蝶という若い男女が出会いました。2人はそのまま夫婦となり、なかよく一緒に暮らしていました。 ある日、海王は海辺の村にのこしてきた、父と母のことが心配になり、「すぐ帰ってくるから待っててくれ」とお蝶に言い、自分の村に帰りました。 お蝶は次の日から毎日、夕方になると家の前で海王が帰ってくるのを待ちましたが、海王は何日たっても帰ってきません。そのうちにお蝶は川の中で、海王がかえってくるのを待つようになりましたが、海王の姿は見えません。村人たちは川から上がるように言いましたが、お蝶は「わたしは岩になってもここで帰りを待ちます。」と言い川に立ち続けました。そしてとうとう川の中で岩になってしまいました。村の人々は、お蝶をかわいそうに思いその岩を「お蝶岩」、岩の上に落ちる滝を「お蝶滝」と呼ぶようになりました。
8	大祇神社(秋の祭典)	西寒野	寒野の中央に位置する鎮守の森。春、夏、秋と神事を行い、祀っています。秋の彼岸祭典には、老若男女が集い、秋の実りと住民の健康を祝います。神事の後には、餅投げや太鼓の競演、子ども相撲、カラオケ等の催物が続き、出店も並んで、笑顔の輪が一日中広がります。区民がふれあう大切な行事のひとつです。

	題材	所在地	説明文 ※地域から出していただいたものは、できる限りそのまま掲載しています。
9	やな場	上豊内	やな場は、清正公が、川遊び川狩りを楽しむために設けられた茶屋が起源です。
10	陣ノ内城跡	下豊内	令和3年10月11日に、国史跡に指定されました。標高約100メートルの平坦地に位置し、空堀や土塁の保存状態が良好で、頂上からの眺望も素晴らしいです。
11	大井手川流れる商店街	岩下一、二区	甲佐町の中心街である商店街には、緑川中流の鵜の瀬堰から取水された大井手川が流れています。商店街には長く続けられているお店から、近年新しくできたお店までは建ち並び、人々の暮らしを支えています。大井出川には、鯉も泳いでいます。
12	中甲橋グリーンパーク	緑町	緑川の豊かな自然と触れ合える区民の憩いの場となっている。また、鮎釣りや恒例の「あゆまつり」の花火大会会場としても利用され、区の「ドンドヤ」の会場としても利用されている。
13	仁田子の桜並木	仁田子	約40年前、地区住民が桜の苗木80本を緑川に隣接した町道沿い400メートルに亘って植栽、定期の樹木の消毒と枝の手入れ等を行うなど大切に育んできました。今では一大「桜並木」を形成、一帯は春には鮮やかなピンクの、夏から秋にかけては緑のプロムナードとなり人々の心を和ませます。区では、桜並木を区のシンボルとして位置づける中で、毎年4月桜花の下でイベントを開催するなど、区民の親睦や地域活性化に大いに寄与しています。また、近年は町内外からの来訪者も多くその憩いの場として定着。桜並木は仁田子区の宝であり貴重な財産で、感謝と敬意を払いつつ引き続き適切な管理や景観保持等を行い、永く保存に努めます。
14	立岩神社	大町	甲佐地区から県道甲佐稲尾野線の竜野地区入り口左手に立岩神社があります。境内には入母屋造瓦葺妻入の拝殿があり、ご神体の大きい岩を男岩（高さ10m、幅7.6m）、少し小さい岩を女岩（高さ7m、幅3.9m）として祀っています。本町を貫流する緑川沿いには多くの水神様が祀られていますが、江戸時代の早川巖島神社の神官の渡邊玄察は、「立岩森（タテイハモリ）甲佐川筋此當りに水神頭（スサジシカシラ）」と記しており、立岩神社は「緑川第一の水神」と由緒書きにあります。祭日は7月11日と11月11日で、神主を呼び、祝詞をあげています。

	題材	所在地	説明文 ※地域から出していただいたものは、できる限りそのまま掲載しています。
15	清正公山(岩鼻神社)	横田	甲佐町一望なるや清正公山。 清正公山（せいしょこさん）は、もともとは長楽山と呼ばれていましたが、「清正公が緑川改修の時、この山頂より工事の模様を日毎ご覧になったゆかりの地である」とのことから、後に清正公山と呼ぶようになったといわれています。
16	目野薬師如来と十二神将像	中横田	中横田区の目野薬師堂内にあります。 薬師堂内には薬師如来を主尊に両脇に日光菩薩・月光菩薩を配し、さらに十二神将を配しています。 薬師如来は樟（くす）材の一木造で像高49.6cmです。頭部や体部の素朴な表現から室町時代後期（16世紀）の地方仏師による制作と考えられます。 脇侍は持物がないたため、日光菩薩と月光菩薩の区別ができませんが、薬師如来と同様に、樟材の一木造で表現も素朴であることから、主尊と同時代にものと考えられます。 十二神将像は桧（ひのき）材で造られ、薬師三尊よりも顔の表情も素朴さが増していることから、江戸時代に制作されたものと考えられます。
17	三社参りは下横田のお宮で	下横田	下横田区には3つお宮があります。 ・神社名【飛石菅原神社】 祭神名【菅原道真公】 鶴・砂溜 ・神社名【御崎神社】 祭神名【海少童神】 小鶴 ・神社名【祇園社】 祭神名【素戔鳴尊】 九折 区では毎年9月22日に宮座祭を開催し、上記の神社を順々に祭典の会場としております。
18	猿王堂	浅井	通称「サンノンサン」と呼ばれ、浅井区の裏手の山の中腹にお堂があります。秋9月15日に”猿王堂祭り”を開催します。区民が、清掃し旗を掲げ、御酒をあげ、参拝しています。以前はこの後公民館で、区民の老若男女が集い、ビンゴゲーム、会食を行い、区民のコミュニケーションを深める機会にして来ました。ここ数年は、お拝りにだけになってしまいました。復興を！

	題材	所在地	説明文 ※地域から出していただいたものは、できる限りそのまま掲載しています。
19	海陸大明神	上早川三区	太古の昔、海幸彦と山幸彦の兄弟が住んでいたという言い伝えがあります。地元では「きゃーらくさん」と呼ばれて親しまれています。
20	九州のへそ	上早川四区	九州のへそ（中心）がどこになるかは諸説あるようですが、九州のテレビ番組内の企画にて調査した結果では、上早川四区内の民家の敷地にあるとのことで、碑が建てられています。
21	雨乞い銅鑼	船津	雨を降らせることを願って、銅鑼や太鼓を打ち鳴らす風習です。
22	麻生原のキンモクセイ	麻生原	国指定天然記念物にもなっている、推定樹齢750年を超えるキンモクセイです。 平成以降、数度の台風により何本もの大枝が折れ、樹勢が減退してしまいました。 傷んだキンモクセイを守ろうと地元麻生原区民や町関係者の熱意と努力により、徐々に樹勢が回復し、今では毎年9月後半から10月半ばまで2回にわたり、枝いっぱいに花を咲かせます。 開花時期には、町内外からたくさんの見学客でにぎわいます。
23	沢水池	世持	世持区の西側にあります。「沢水池」と書いて「そつつぁんいけ」と呼ばれています。 世持区がある乙女台地には大きな川がなく、昔から農業用水の確保に苦労していました。区の水源としては、雨水を蓄えた二つのため池と「沢水池」と呼ばれる遊水池の水が主となっています。 沢水池は、世持区から南三箇区・中山区を経て熊本市南区城南町の浜戸川へと流れる錦郷川の源流となっており、池の近くには水神様を祀る石室があります。
24	荒人神社	南三箇	拝殿入口の梁には梅鉢の紋があり、菅原道真が祀られています。拝殿は入母屋造瓦葺平入で御拝口があり、本殿は明神造です。本殿には同じ大きさの厨子が四個並んでいます。厨子にはそれぞれしめ縄があります。 平成28年熊本地震により被災しましたが、地元の方々によって修復されています。

	題材	所在地	説明文 ※地域から出していただいたものは、できる限りそのまま掲載しています。
25	中山錦川遺跡	中山	この遺跡は、県道の整備に伴って平成17年から平成20年に熊本県教育委員会によって発掘調査が行われました。 調査の結果、縄文時代の調理痕跡と思われる屋外炉や集石遺構、狩猟に使用した落とし穴が確認されました。 また、古墳時代の集落跡も確認され、さらに、奈良時代から平安時代の集落も確認されています。
26	津志田河川自然公園	津志田	甲佐町を流れる緑川沿いにある津志田河川自然公園は、「乙女河原」の通称でも親しまれています。 春には河川敷の菜の花や堤防の桜並木が、秋には黄色に染まったイチョウの並木が来場者を出迎えます。 また、キャンプやバーベキューなどのアウトドアスポットとしても高い人気を集めています。
27	小一領神社	下田口	下田口公民館の横にあります。 入母屋造瓦葺平入の本殿の奥には、ガラスの折り戸があり、中には2体の木造坐像の神像が祀られています。左が男神で高さ40cm、右は女神で高さ35cm、2体は高さ3cmの畳の台座に座り、和紙の衣を着ています。
28	十一面観音	田原	顔が11個！？石造の十一面観音菩薩像です。 像の背面には「嘉永六年（1853）丑年二月」と刻まれています。
29	おだんご祭り	北原	当地区は分譲住宅地のため古くからある神社、祠、伝統的地域行事はありません。また地域も狭いため特筆すべき風景などありませんが、地域イベントとして秋に地域の交流、また被災時の炊き出し訓練を兼ねたおだんご祭りを行っています。これは以前行われたこうさんもん元気活動の流れを汲み継続して北原区独自で行っているものです。参加者は約30名程度で開催しています。

	題材	所在地	説明文 ※地域から出していただいたものは、できる限りそのまま掲載しています。
30	早川厳島神社	早川	毎年１０月９日に秋季例祭が行われ、子供たちによる獅子舞奉納があるなど地域の氏神様として大切に守られています。創建は奈良時代中期の宝亀２年（７７１）とされています。昔は奉納相撲や出店も来て、子供たちも祭りが来るのを楽しみにしていました。
31	北早川の獅子舞	北早川	寛文５年（１６６５）、この年は不作であり疫病が流行りました。村人は五穀豊穡、疫病退散を祈って「厳島（いつくしま）神社」に獅子舞を奉納したのが始まりとされています。“振り子”は小学生の男女、獅子は大人が舞い手となっています。
32	糸田の大綱引き	糸田	起源、由来の詳細は不明です。糸田地区は昔から水害の多いところでした。綱は水防用に作られたもので、この綱作りから、村を二分して綱引きが始まったとされます。現在は、毎年旧暦１月１５日に最も近い日曜日に区の消防団が主催となって実施されています。
33	白旗山	辺場	白旗山のふもとに辺場区があり、春は桜、秋は紅葉とまだ開発されてないので原生林の風景そのままです。辺場区住民は、いつもその風景を見て生活してきました。
34	山出の獅子舞	山出	１５８１年（天正９年）の１２月２日に、当時の御船城城主であった甲斐宗運が、甲佐城を攻めていた相良義陽を討ち取りました。その翌日、戦に勝利した甲斐宗運が、山出地区にある大武神社に勝利の獅子舞を奉納したのが始まりとされています。それ以来、毎年１０月９日の大武神社の秋祭りで披露されてきました。獅子舞は、迫力のある獅子の動きと先端に牡丹の花が付いた紐を操る猿の曲芸が特徴です。

	題材	所在地	説明文 ※地域から出していただいたものは、できる限りそのまま掲載しています。
35	芝原厳島神社	芝原	芝原区のほぼ中央にあります。平成28年熊本地震で被災しましたが、地元の方々によって修復されました。 神社敷地隅には3体のお面があり、赤は火の神、白は風の神、青は水の神といわれています。 また、神社では9月の第1日曜日に明治時代から続く子ども相撲が行われています。ここ数年はコロナ禍により中断していましたが、今年から再開されます。
36	吉田区奉納相撲	吉田	・神事として、豊作に感謝し、五穀豊穡を祈願して、吉田区ができたころから行われていると思われる。(加藤清正の河川工事で府領の枝村から吉田区へ) ・現在は小学生以下の子供が参加している。以前は男性のみであったが、今は男女関係なく参加している。 ・地域の子供も少なくなったので、地区外にいる孫の参加も増えている。 ・以前は、うるち米とあずきでおにぎりを作り子供たちに配っていた。コロナ以降は中止している。 ・以前は大人相撲もあり、他地区からも参加していた。 ・以前は、米の収穫前の9月5日に行われていたが、今は9月の第1日曜に行われることが多い。 ・土俵作りや、土俵を囲むしめ縄作りは伝承している。 ・祭りの当番は、上組、中組、下組で交代で行われている。また、当番の組は鳥居のしめ縄、神社のしめ縄、水神様のしめ縄作りも行い、若い人へ伝承している。 ・神事を行う事で、組内の交流の場となり、コミュニケーションを通じて絆を強めている。 ・神事を行う組内の代表を決めている。代表は神主が名前を書いた紙を大麻で釣り上げる。釣り上げられた名前の人が代表となる。

	題材	所在地	説明文 ※地域から出していただいたものは、できる限りそのまま掲載しています。
37	吉田の桜並木	吉田	・ 15年以上前に、宝くじ助成金で吉田区民により植えられた。 ・ 吉田区は、6小組合がある。1小組合で4本ずつ植えた。合計で24本植えた。 ・ 草刈りは、吉田区の幹部で年に2～3回行っている。 ・ 春になり、桜の花が咲くと多くの人が見物に訪れる。
38	初市		毎年3月に甲佐町商店街を会場に開催される伝統の行事で、今年で第354回を迎えました。会場には露店や植木市などが並び、活気にあふれる一日となります。 昔は、サーカスなども来ていました。
39	緑川スポーツフェスタ		毎年春に開催される、甲佐町のスポーツイベント。クイズウォーク・スポーツ教室・スポーツ体験ゾーンからステージイベントやグルメゾーンまであり、子どもから大人まで多くの笑顔であふれる1日となります。
40	あゆまつり		毎年7月に開催される、甲佐町の夏祭り。たくさんの出店が並び、子どもみこし・鮎のつかみどり・盆踊り・竹あかり展示・ステージイベントなどが続き、3000発の花火大会で締めくくられます。
41	産業文化祭		農業祭・商工祭・文化祭が同時開催される、甲佐町の秋の一大イベントです。 ステージ発表や作品展示、ニラ飛ばし大会、出店ではニラ1000人鍋などいろんなグルメや買い物を楽しめます。
42	10マイルロードレース		毎年12月に開催される甲佐町の冬の一大会。10マイル（およそ16km）の距離を全国から集ったアスリートが走り抜き、沿道ではたくさんの応援の方々であふれます。

	題材	所在地	説明文 ※地域から出していただいたものは、できる限りそのまま掲載しています。
43	鵜の瀬堰		甲佐町を流れる緑川の中流にある堰で、加藤清正公によってつくられました。 鵜の瀬堰の成り立ちには、次のような話が残っています。 鵜の瀬堰ができる前、緑川は雨が降るたびに洪水が起こり、人々は困っていました。その頃のお殿様だった加藤清正公は、これをなんとかしようと何度もせきを作りましたが、その度に流されてしまいました。そこで、清正公は甲佐神社の神様に「水に流されないせきを作ることができますように」とお祈りしました。 ある夜、清正公は川の岸から向こうの岸へ、ななめに鵜の鳥が並んでいる夢を見ました。「これは神のお告げにちがいない」と、夢の中の鵜が並んでいたとおりにせきを作らせたところ、せきは水に流されないようになりました。
44	総合運動公園（緑川リバーサイドパーク）		緑川の河川敷にある運動公園です。サッカーコート、野球場、ソフトボール場、テニスコートのほか、外周ランニングコースがあり、みんな思い思いに汗を流しています。